

2008年9月18日プレスリリース

Ref 1158

<http://www.iso.org/iso/pressrelease.htm?refid=Ref1158>

ステークホルダーのコンセンサスが社会的責任に関する ISO 26000 の開発作業の進展を可能にする

社会的責任についてのガイダンスを提示する ISO 26000 は、作業原案(WD)から委員会原案(CD)の段階に進み、規格開発における1つの重要な段階を通過した。これは、ISO 社会的責任作業部会(WG SR)内において、マルチステークホルダーの代表間で高いレベルのコンセンサスが形成されつつあることを示している。



写真: Jens Henriksson

歴史的な瞬間: チリのサンチャゴ市で開催された、WG SR の第6回総会で、ISO 26000 を CD に進めるという決議が承認され、拍手喝采が沸き起こった。左から、ISO 中央事務局テクニカルプログラム マネージャ Sohie Clivio 氏、決議委員会 Khawla Al-Muhannadi 氏、WG SR 事務局 Kristina Sandberg 氏、WG SR 副議長 Staffan Söderberg 氏、WG SR 議長 Jorge E. R. Cajazeira 氏、WG 副事務局 Eduardo Campos 氏。

WG SR の第6回総会は、2008年9月1日から5日までチリのサンチャゴ市で開催され、主な成果の1つとして、WD を CD として回付するという決議が承認された。この会議には、76 の ISO 加盟国と33 の連携機関から386 名もの専門家が出席し、これまで開催された ISO 規格開発会議の中で最大の会議の1つとなった。

ジョージ カジャゼイラ議長は、「CD 段階に進むという決定は、ISO 26000 の規格開発プロセスにおける1つの達成目標が実現されただけでなく、この作業のために ISO が採択した、マルチステークホルダーが関与するという手法が、大規模で多様な集団の中で複雑な問題を処理するのに効果的なツールであるということを示す生きた証拠です。」と述べている。

スタファン ソダーバーグ副議長は、「私にとって最も印象的だったのは、SR の専門家たちが、最も難しいテーマについてさえも積極的にコンセンサスを得る、また得ようとするというその姿勢です。今回の会議を通じて、ステークホルダーとの対話の強さが証明されました。」と述べている。

この WG SR には、産業界、政府、労働、消費者、NGO、サービス・サポート・研究・その他の6つのステークホルダーグループの代表が参加している。ISO 26000 の原案の見直しと改訂の責任を担う統合原案タスクフォース(IDTF)には、各ステークホルダーグループからそれぞれ2名(先進国から1名、途上国から1名)が参加している。また、この IDTF には、国際労働機関と国連グローバルコンパクトの代表も参加している。

サンチャゴ総会の前に、WG SR は、ISO 26000 第 4 次作業原案の第 2 版に対して、約 5,200 のコメントを受け取った。IDTF は、これらのコメントに基づいて、総会で取り上げなければならない主要な項目として、次のものを特定した。

1. 国際的行動規範
2. 社会的責任イニシアチブへの参照の本質
3. 政府の言及の本質
4. 影響範囲（バリューチェーン及びサプライチェーンを含む）
5. ピック・アンド・チユーズ（優先順位の設定、並びに関連性及び重要性に関する課題を含む）

これらの問題について十分な前進があり、コンセンサスも得られたため、ISO 26000 は CD の段階に進むことができ、CD 原案は、3 ヶ月以内に出来上がり、公表される見込みである。現在、国際規格としての ISO 26000 の発行は、2010 年 9 月を予定している。

WG SR の第 6 回総会は、チリ標準化協会(INN)の主催によって開催され、開会式では、Hugo Lavado 経済大臣、Osvaldo Andrade 労働大臣、INN の Executive Director である Sergio Toro 氏によるスピーチがあった。



サンチャゴにて、Twinning 方式（先進国と途上国がペアでリーダーシップをとる方式）によりブラジル規格協会(ABNT)とともに WG SR のリーダーシップをとるスウェーデン規格協会(SIS)の CEO、Lars Flink 氏と談話中の ISO 事務局次長 Kevin McKinley 氏(右)。

カジャゼイラ議長は、ISO 26000 の開発の現状について、「ISO26000 が、世界中の公的機関や民間企業に理解され、適用されるようになるために、世界人権宣言などの高度な国際協定から生まれた原則や期待を規格の中にかにしてい取り入れていくかがわかってきたことは、私たちにとって励みになります。」とまとめた。

ケビン マッキンリーISO 事務局次長は、サンチャゴにて WG SR のレセプションでスピーチを行った際、WG SR が達成した成果を称え、「社会的責任 WG は、ISO ファミリーの中で興味深く重要な発展を表しています。ISO の規格作業プログラムでこのプロジェクトに着手して以来、私は、社会的責任というこの非常に広大で難解なテーマに対して、模範となるような高いレベルの貢献、努力、専心的な活動、そしてステークホルダーの積極的な関与を見てきました。」と述べた。